

★メールマガジン「本はともだち～山口県子ども読書支援センターニュース」配信中！

メールマガジン「本はともだち」は、新刊紹介や県内の行事など、より充実した内容で配信中です。読者登録の方法は県立図書館のホームページをご覧ください。

【山口県子ども読書支援センター 直通電話設置のお知らせ】

※直通電話の番号は、083-924-2113（子ども読書支援センター）です。どうぞご利用下さい。

【山口県子ども読書支援センター行事】

★「幼児のためのおはなし会」（毎月第一火曜日）

○日時：1月10日（火）11：00～11：20 ○会場：山口県立山口図書館 第2研修室 ○対象：幼児 ○定員：6組程度
《12月のおはなし会で使った本》

『くれよんさんのけんか』大型紙芝居 八木田宜子/脚本 童心社 2003.5

『ぐりとぐらのおきゃくさま』大型絵本 中川李枝子/文 福音館書店 2003.11

『マジックエプロン』エプロンシアター 菅原英基/監修 メイト

★第1回子どもと本をつなぐスキルアップ講座

○日時：令和5年1月21日（土）13：30～15：30

○会場：山口県立山口図書館 レクチャールーム

○講師：河井 律子氏（元・福岡県立図書館副館長、近畿大学通信教育部非常勤講師）

○内容：【講義】「科学絵本を楽しみましょう」

～科学の絵本を読み聞かせるための本の選び方とプログラムの組み方、読み聞かせの仕方～

○対象：県内の子ども読書ボランティア、公共図書館職員、司書教諭、学校司書、保育士、幼稚園教諭、保育教諭等

○定員：60名（要申込み、先着順）

○申込方法：FAXまたは電子メール（HP上の参加申込書をダウンロードしてご利用ください。）

電話（①氏名②所属（ない場合は住所）③電話番号をお知らせください。）

○申込締切：令和5年1月18日（水）17時（定員になり次第、締め切り）

★第2回子どもと本をつなぐスキルアップ講座

○日時：令和5年2月4日（土）13：30～15：30

○会場：山口県立山口図書館 レクチャールーム（Microsoft TeamsによるLive配信有り）

○講師：高宮 光江氏（科学読物研究会会員）

○内容：【講義】「子どもに科学の本を手渡すには」

～科学の本へと導くさまざまなアプローチやブックトーク、科学の本の紹介～

○対象：県内の子ども読書ボランティア、公共図書館職員、司書教諭、学校司書、保育士、幼稚園教諭、保育教諭等

○定員：会場60名（要申込み、先着順）オンライン参加30名（要申込み、先着順）

○申込方法：別紙参加申込書によりFAX、電子メール、又は持参での申込（HP上の参加申込書をダウンロードしてご利用ください。） *事前アンケートあり

○申込締切：令和5年2月1日（水）17時（定員になり次第、締め切り）

◎申込み・連絡先：山口県子ども読書支援センター（電話：083-924-2113 FAX：083-932-2817 Eメール：a50401@pref.yamaguchi.lg.jp）

【新刊紹介】価格は消費税抜き

＜絵本—乳幼児から＞

『どきどきキッチンサーカス』 石津ちひろ/文 山村浩二/絵 福音館書店 2022.10 ¥900

「きらきら きかざる ざる ずらり」「あわてて どうじょう あわたてき」「おたまの たまのり とまらない」「へらが ふらふら フラダンス」「さらが さらりと ちゅうがえり」台所の道具たちがせいぞろい。キッチンサーカスははじまるよ！おなじみのキッチンの道具たちがいろいろな曲芸に大奮闘。その愉快な表情や動きにも注目。声に出して読んでも楽しい言葉遊び絵本。

＜絵本—3, 4歳から＞

『くるまね？でんしゃさ！』 うちむらたかし/作 クレヨンハウス 2022.9 ¥1700

なかよしのねずみとりす。今日はふたりでお出かけ。ねずみが、「くるまね？」と言うと、りすは、「でんしゃさ！」と答え、別々の乗り物ででかけることになったふたり。野をこえ街を通り、トンネルをぬけて、ふたりは同じ目的地のおもちゃ屋さんへ到着。そこでふたりが選んだおもちゃは…？くるまと電車、競争しているわけではなく、それぞれの風景や音が楽しめるお出かけ絵本。

＜絵本—5, 6歳から＞

『ことばとふたり』 ジョン・エガード/ぶん きたむらさとし/え・やく 岩波書店 2022.9 ¥1600

言葉を知らないいきものがいた。「たのしい」という言葉は知らないけれど、そんな気持ちになった時には、腕を伸ばし鳥のようにパタパタし、海をみつめた。おいしいものを食べた時は、お腹をたたき後ろ向きにくるりと3回宙返り。そんな様子をみていたのは、言葉を知っているいきもの。ある日ふたりは出会い…。コミュニケーションの根底にあるものに気づかされる絵本。

＜絵本—小学校低学年から＞

『まいのがようし』 長坂真護/作 2022.9 ¥1500

アフリカのガーナのある村では、お父さんの仕事を1日手伝うと約20円もらえる。20円で大きくておいしいキャンディーが1つ買

える。こどもたちは毎日働いた。ある日、「絵かき」と名乗る男が村を訪れ、こどもたちに話しかけた。「このなかで絵かきになりたいものはいるか？」3人のこどもが手をあげ…。貧困解決に取り組む作者の実体験を題材に描かれた心温まる絵本。

<絵本—小学校中学年から>

『みえなくなったちょうこくか』 立木寛子/著 三輪途道/彫刻作品 メノキ書房 2022.7 ¥1800

あたしは彫刻家。周りにあるものは何でも彫った。すべてがみえていた。ある朝、目の前は光だけになった。でもあたしの思いはひとつ。「せかいにあふれるたましいをあたしの手でかたちにしたい」目の難病で視力を失った彫刻家、三輪途道さんをモデルに、詩と彫刻で心のあり様を表現した絵本。「みるってなんだろう みえるってどんなこと？」を改めて考えさせ感じさせてくれる。

<読み物—小学校低学年から>

『たんていベイビー』 ねじめ正一/作 本信公久/絵 文研出版 2022.9 ¥1200

たんていベイビーは赤ちゃんながらも町の事件をすばやく解決する名探偵。唯一たんていベイビーの赤ちゃん言葉が分かる助手のウシ、ウーバーとはいつも一緒。ある時八百屋のヤギのおじさんがおぼあちゃんがいなくなり飛び込んで…。事件の解決はたんていベイビーの推理を詠んだ俳句が手掛かり。たんていベイビーの活躍が光る痛快推理ストーリー。見返しにおすすめ俳句も掲載。

<読み物—小学校中学年から>

『ブロッケン森のちっちゃな魔女』 アレクサンダー・リースケ/原作 西村佑子/訳・翻案 ももろ/絵 静山社 2022.9 ¥1100

ドイツのブロッケン山に住んでいる子ネコ位のちっちゃな女の子ミリー。両親はいないが森のどうぶつたちとは仲良し。ある雪の日、家で見つけた本をきっかけに魔女になる特訓を始める。健気に頑張るミリーの姿が愛おしくなる物語。翻訳を担当した魔女研究家がドイツでこの本を見つけたことから出版が決定する。原作はドイツで児童書のほかドイツ史の解説本を執筆する作家が執筆。

<読み物—小学校高学年から>

『奉還町ラブソディ』 村中李衣/作 石川えりこ/絵 BL出版 2022.11 ¥1600

山口県から岡山県に引っ越してきた小学5年生のさとし。転校して最初に声をかけてきたあつしと仲良くなった。あつしの家が切り盛りするお饅頭屋さんがある奉還町商店街には、個性的な人が沢山。にこりともせず一日店の前で立っているおっちゃん、動物の皮やひげの道具を使いこなす散髪屋…。奉還町商店街に住む人々と日常の中で交流を深めていく少年たちの心温まる物語。

<ノンフィクション—小学校低学年から>

『友だちのこまったがわかる絵本』 WILL こども知育研究所/編・著 赤木和重/監修 金の星社 2022.9 ¥1700

身近にいる友達のすることに「あれっ?」「どうして?」と思った時に、相手の気持ちを考えるヒントを紹介。教室でずっと動いている子、実は…。ピアノの音を聞いたら耳をふさいでしまう子、実は…。困っている子が何に困っていて、どんなことを考えているのか、周りの人にどう接して欲しいのかを、具体的な場面で解説する。人によって感じ方や発達の違いがあることを知る絵本。

<ノンフィクション—小学校中学年から>

『作って発見!西洋の美術』 音ゆみ子/著・工作 東京美術 2022.10 ¥3000

ゴッホみたいにくるぐると描いてみたら…。ダ・ヴィンチのモナ・リザを福笑いにしてみたら…。アルチンボルドの画はスーパーのチラシで再現できる?工作したり絵を描いたりして西洋の有名な絵を鑑賞する方法を紹介。画家の生い立ちや名画のエピソード、道具の使い方のコツ等について分かりやすく解説。著者は美術館学芸員で、鑑賞と制作の両方を体験できる機会提供に取り組む。

<ノンフィクション—小学校高学年から>

『チャンス はてしない戦争をのがれて』 ユリ・シュルヴィッツ/作 原田勝/訳 小学館 2022.10 ¥1600

第二次世界大戦が始まった時ウリ(ユリ)は4歳。ドイツ軍の攻撃のあと、ワルシャワを家族と共に脱出し安寧の地を求めて各地を転々とした約10年間。自身の画風のイラストと朴訥とした文体で、戦争や迫害、病気や飢えの苦しみなど戦時中の過酷な日々を描く。ポーランド生まれのユダヤ人である絵本作家が、絵を描く楽しさに支えられながら過ごした幼少期を綴る。

<読み物—中学生から>

『ぼくたちはまだ出逢っていない』 八東澄子/著 ポプラ社 2022.10 ¥1400

イギリス人の父親と日本人の母親をもつ中3の陸は、同級生から暴力を受けているが、家族には言えずにいて、親友の樹だけが理解者。母親の再婚相手の家に引っ越してきた中2の美雨は、居心地の悪さから、散歩が日課に。壊れたものに命を吹き込む伝統技法「金継ぎ」と出会ったことから少しずつ変わっていく人間関係を描いた物語。装丁も「金継ぎ」がモチーフ。

『普通のノウル』 イ・ヒョン/作 山岸由佳/訳 評論社 2022.10 ¥1500

17歳の少年ノウルは、33歳の母親と二人暮らし。ずっと苦勞している母親が、いつか平凡な幸せを手にするを日々願っている。一番の親友は、同じビルの中華料理屋の娘で同い年のソンハ。ある日、クラスメートで秀才のドンウから、ソンハを紹介してほしいと頼まれたが、もやもやした思いが沸き上がり…。「普通」を願う少年が、次のステップに踏み出すまでの物語。

<ノンフィクション—中学生から>

『ウクライナから来た少女ズラータ、16歳の日記』 ズラータ・イヴァシコワ/文・絵 世界文化ブックス 2022.10 ¥1500

ズラータが日本に興味をもったのは13歳の時。叔父の部屋で『日本語独習』という本を見つけたことをきっかけに日本のアニメが大好きになった。しかし、日本で漫画家になることを夢見る普通の女子高生の生活は、2月24日から生活は一変。母が工面した16万円を持って戦火のウクライナから、ポーランドを経由して日本へ。様々な人と出会い、夢に向かう命がけの140日間の日記。

<研究書>

『絵本はホスピタリティの宝箱 エピソード33』 医療法人元気が湧く/編 かもがわ出版 2022.11 ¥1500

編者は福岡市近郊で3つの小児歯科医院を経営する医療法人で、11月30日を「絵本の日」に制定する登録申請するなど、絵本を通じた文化活動を続けている。本書は2021年までの5年間に応募された「絵本にまつわるエピソード」の中から30編と寄稿エッセイ3編を収録。子ども時代の思い出も含め、大人こそ絵本から元気をもらっていることを再確認できる1冊。

※【新刊紹介】の本は、県立図書館で現在受入準備中の本です。そのため、県立図書館の蔵書検索(OPAC)では検索できませんが、利用することは可能です。収書のための選書の参考として、閲覧、貸出等を希望される方は、お問い合わせください。

山口県立山口図書館では、電子図書館サービスを提供しています。利用案内はこちらから→

<http://library.pref.yamaguchi.lg.jp/dlibrary>

